

monthly nikkin money



# 月刊 ニッキン マネー

女性のためのお金と生活の情報誌

ボーナスを増やそう！  
私にピッタリの運用タイプは？

知らなきゃダメ！「金融ルール」  
預金保険制度

〔世界遺産〕ロマンズの旅  
バルセロナ

新連載

女性のための株式入門



月刊ニッキン・マネー

2005

12

Vol.3

¥500

■特集■  
利用する

自分で設計する保険

# 銀行で買える保険が増えます

今年12月から、銀行等で販売される保険の種類が増えます。これまでの保険販売の規制が緩和され、一時払いの終身保険や養老保険、学資保険など、貯蓄型の生命保険商品の取り扱いが拡大します。また、損害保険分野では、ゴルフアー保険やスキー・スケート総合保険など、個人向け賠償保険の販売が認められました。2年後には、全ての保険商品が銀行等で販売できるようになる予定です。

いつでも、好きなときに、銀行でも保険が買えるようになる。これまでの保険加入の仕組みが変わるかもしれません。とくに生命保険は、「保険の勧誘を受けて、勧められるままに加入する」ということが一般的です。今後は、「自分で考えて、必要な保険に加入する」という人も増えるでしょう。保険の買い加入の仕方を考えてみます。

保険は、あなたらしく、  
あなた自身でコーディネートしましょう



イラスト・高木はるみ

## 「必要な保障」の 考え方

最近、テレビCMやインターネットを使って、自分で保険に申し込む人が増えていきます。しかし、保険というのは、「万が一」のための備えですから、日常の生活の中では必要性がわかりづらいものです。自動車保険や火災保険など損害保険は、「万が一」の損失について具体的にイメージしやすいのですが、生命保険の場合は、必要保険金額がピンときません。「必要な保障」とは、どの程度の保険金額なのでしょう？

### 1泊2日の 入院保険は必要？

たとえば、「医療保険」。入院した日数に応じて「1日あたり1万円」とかの保険金が出る保険です。このごろの流行は、「1泊2日」とか「日帰り入院」とか、短い入院期間でも保険料を支払うタイプです。従来は、入院5日日以降から保険金を支払うタイプが一般的でした。ただ、本日に1泊2日の入院で、保険金が必要でしょうか？

1日あたり1万円の保険金を、2日間分もらったからといって、「生活が助かった」という実感には結びつきません。

医療保険を考える場合は、1入院あたり何カ月まで長期間の保障が受けられるか、数度の入院にわたって通算で何日間は保障されるかとか、万が一の長期入院のカバー範囲を充実した方が、保険の意味が大きくなります。または、先進のがん治療など、社会保険がカバーしていない全額自己負担の医療術について保険金が出るかなどをチェックしたいところです。

### 自分で保険を考える

「自分の生活実感」を頼りに、必要な保険を考えましょう。一般に示される「保険設計書」は、「一般的な必要保障額」です。たとえば、世帯主の死亡保険金額は、一般的には世帯主の年収に配偶者の生存年数を掛けて計算します。しかし、世帯主を失った配偶者が、頑張った収入を増やすこともあり得ます。残った配偶者の収入だけで家計がやってゆけるのなら、世帯主の保険金は数百万円で十分といえます。

保険は、万が一の場合に、現在の生活状況を変わずに維持し、状況を速やかに回復することを目的に加入します。ただ、現実には、万が一のことが起こった場合は、その人や家族を取り巻く環境は激変するものです。家族の生活態度を変えさせるかもしれません。そのような家族に起こる変化も考えて、「わたしに必要な保険」を考えましょう。保険の加入を考えることは、あなたと家族の関係を、見直すきっかけにもなります。

### 銀行が保険を販売する意義

自分から保険を考え始めると、比較検討するようになります。現在の生命保険の営業員は、1社専業が一般的ですから、他の会社の商品との比較ができません。複数の営業員から話を聞いて検討するのは、かなり面倒です。

ところが、銀行などは、複数の保険会社の商品を取り扱っています。1カ所で複数の保険を比較できると、自分が必要とする保険を選びやすくなります。また、個別の銀行向けに特別に開発された「専用商品」を取り扱っているところもあります。

今のところは、銀行で取り扱うことができる保険の種類は限定的で、死亡保険（定期保険など）、自動車・自賠責保険、第三分野（医療・ガン・介護保険など）など、本来イメージする保険商品は除外されています。しかし、2年後に全ての保険が販売されるようになるので、保険の加入の仕方が大きく変わっていくかもしれません。

## 銀行等で買える保険

銀行や信用金庫などで保険の取り扱いが始まったのは2001年4月。住宅ローンを借りるときに加入する長期火災保険や信用生命保険など、銀行業務に関係の深い保険の取り扱いから始まりました。2002年10月には年金保険など、貯蓄性の高い保険に取り扱い範囲が広がっています。歴史は5年足らずと短いですが、年金保険の販売では、「変額個人年金保険」「米ドル建て年金保険」など、従来にはなかったタイプの保険を人気商品にするなど、保険業界の変化をも促す力がありました。これから銀行で発売される商品に注目です。

### 変額個人年金保険の成長

いつでも思ったとき、  
銀行で保険が買えます。



変額個人年金保険とは、将来年金として受け取る年金の原資が、年金の受け取り開始まで変動する年金保険です。将来の保障金額が決まっていないので、加入者が納得できる説明をすることが難しい商品でした。

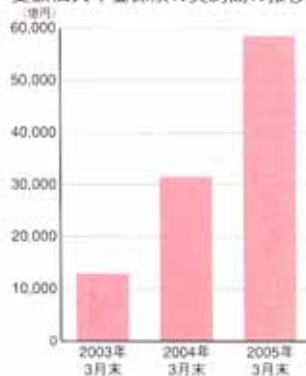
ところが、銀行や証券会社が取り扱い始めると、変額年金保険は「投資型年金」と呼ばれるようになり、「保険の付いた投資信託」というわかりやすいイメージがついて販売が加速しました。銀行などは、既に価格変動のある投資信託

を取り扱っていたため、他の商品との比較から、変額年金保険の商品性が理解しやすかったようです。今では、投資商品のラインアップの中で、「保険という付加価値のついた商品」として定着しました。

### ドル建て年金保険の登場

将来の年金受取額が予め予測できる定額個人年金保険は、従来の年金保険の定番商品でしたが、銀行が取り扱うようになってから、年金原資を米ドル建てにする商品が目立つようになりました。国内の超低金利によって日本円での運用では10年以上の長期にみても年率1%程度にしかなん原資が増えないところ、米ドル建てにすると

変額個人年金保険の契約高の推移



銀行で販売する保険が増えます

保険も、デパートで衣服や化粧品を選ぶような感覚で、選り取りができるようになってきます。衣服や化粧品を選ぶときには、着心地や使い心地について十分検討するように、保険も自分で決めるようにしましょう。



■銀行や信用金庫などで取り扱える保険の範囲は緩やかに拡大しています。2001年4月には、主に住宅ローンに関係する保険に限られていましたが、2002年10月から個人年金保険に広がり、今年12月からは生存保険といわれる貯蓄型の保険の取り扱いが始まります。今後2年間、金融庁が

銀行の保険の募集状況をチェックします。不正確な説明をして保険を販売していないか、融資などの抱き合わせで販売していないかなど、問題のあるような募集を行っていないければ、2007年12月をメドに保険の全商品を銀行が販売できるようになる予定です。

銀行などが販売できる保険商品の範囲

生命保険分野

損害保険分野

住宅ローン信用生命保険

住宅ローン長期火災保険  
住宅ローン債務返済支援保険  
海外旅行傷害保険

個人年金保険  
財形保険

年金払い積立傷害保険  
財形傷害保険

一時払い終身保険  
一時払い養老保険  
10年以内平準払い養老保険  
貯蓄性生存保険  
(学資保険など)

個人向け賠償保険等  
(ゴルフ保険など)  
積立火災保険等  
積立傷害保険

2005.12~

定期保険(死亡保障)  
平準払い終身保険  
10年以上平準払い養老保険  
医療・介護・ガン保険等

自動車・自賠責保険  
団体火災保険等  
事業関連保険  
団体傷害保険  
医療費用・介護費用保険等

2007.12まで

保険を専門に取り扱う窓口から、銀行のようにあらゆる金融商品をとり扱う窓口へと、販売窓口が変わることで、保険の性格が変わります。年金保険で外貨建ての保険が広がったように、他の商品との比較感が働くようになるからです。2年後に、銀行で全ての保険が扱えるようになると、保険のイメージが大きく変わるかもしれません。他の金融商品に保険機能を付けて付加価値を高めた商品開発が活発になると考えられます。また、単純・細分化した保険も銀行向けに開発が進むでしょう。わかりやすい商品は、通販と銀行が主要な窓口になるかもしれません。

販売窓口で変わる商品性

3%以上で運用できるといふ金利差が人気を呼びました。米ドル建て年金には為替変動リスクがありますが、銀行では外貨預金をはじめ為替変動リスクがある商品の経験があるため、大きな抵抗なく受け入れられました。

## 銀行で 新しく買えるようになった 保険

12月から銀行で新しく買えるようになったのは、一時払いの終身保険や養老保険など貯蓄型の生命保険です。損害保険も積立火災保険など貯蓄型の商品が追加取り扱いを認められました。最近、保険販売の中心商品になっている医療保険や介護保険など、いわゆる第三分野の保険は、また、販売できません。第三分野とは、生命保険と損害保険の中間にある保険で、生保と損保の両方が商品を出しています。医療・介護分野のほか、病気や事故で働くことができない期間の収

### 一時払いの終身保険

「終身保険」は一生涯の死亡保障をする生命保険の代表的な商品です。保険契約を中途解約すると保険料の一部が払い戻される解約返戻金制度があり、掛け捨てではない死亡保険です。今回、銀行で販売が認められたのは、保険料の一時払いのみで、払い込んだ保険料の金額が、死亡保険金になります。

東京海上日動あんしん生命保険は、銀行での販売向けに「あんしんドル終身」という新商品を発表しました。一時払い保険料は、100万円以上5億円以下。加入時に決まる解約返戻金の積立利率は、5年ごとに変わりますが、初回だけは利率適用期間を5年、10年、20年から選べます。米ドル建て金利が今後、低下すると考える人は長い期間を選ぶなど、資産運用商品の考え方で選びます。また、一般的に生命保険加入時には必要な健康状態などの告知や医師による診査は不要としていて、銀行の窓口だけで簡単に加入手続きができ

ます。診査不要は、銀行が扱う保険のポイントになりそうです。

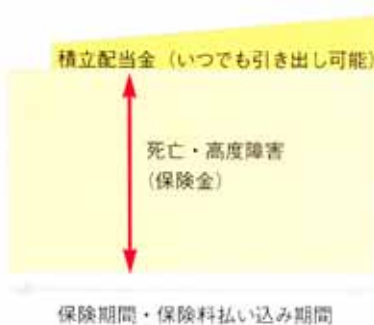
### 養老保険は 10年以下で月掛けも

「養老保険」は、満期がある保険で、満期時に満期保険金と配当金が受け取れる貯蓄性の高い保険です。保険期間中は満期保険金と同額の死亡保障があります。今回は、一時払いと10年以下の平準払いが認められました。

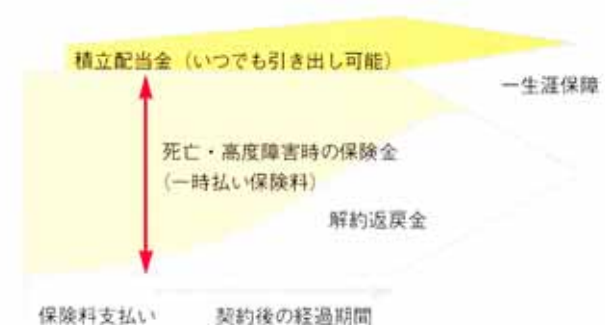
### 積立損害保険も貯蓄重視

新たに認められた損害保険も貯蓄型の保険です。積立火災保険や積立傷害保険は、満期返戻金がある損害保険。銀行の他の金融商品と比べてメリットがあると感じられる商品設計になると考えられます。また、ゴルフ保険などの個人向け賠償保険は、スポーツを熱心にする人の限られたニーズに合わせた損害保険です。

■養老保険の保障の仕組み



■一時払い終身保険の保障の仕組み



入を保障する保険も、第三分野に位置づけられています。

今回、新たに銀行で取り扱いが認められた保険は、貯蓄を重視した一部の商品に限られます。しかし、銀行も保険会社も、二年後に予定されている保険の銀行での販売の全面解禁に向けて、準備を始めます。これからは、銀行での販売を意識した保険の新商品も前倒し出てくるでしょう。



## 保険を

### 「自分で設計する」

保険を「自分で設計する」ためには、どんなことに注意すればよいのでしょうか。専門家の意見を聞きました。答えてくださったのは、保険の代理店もなさっている経営コンサルタント会社、インフォランスの佐々木雅士さんです。

#### ——保険を選ぶポイントは？

佐々木さん：第一に「保険」と「貯蓄」を分けて考えることです。「保険の中で貯蓄をしよう」と考える人が多いようですが、その考えには無理があります。保険は純粋な保障として、貯蓄は貯金等で、それぞれの特性に合わせて考えた方が合理的です。この点、銀行では投資信託など投資商品も取り扱っているので、商品特性を十分に生かした商品提案ができると思います。また、これからは生存リスクへの備え

が重要です。年金など退職後の備えも必要ですが、それに加えて、もし、寝たきりになったらということも考え、長期の入院や介護などを保険でカバーしておきたいところです。

#### ——必要な保険の考え方は？

佐々木さん：現在の保険販売は、保険会社が主要な販売網を押さえているために、メーカー主導で作られた“保険の常識”がまかり通っています。たとえば、子育て家庭では、世帯主が亡くなって収入が途絶えたら大変だからと、数千万円



の保険金があたり前のようにいわれます。しかし、その場合でも実家に帰って子育てできるのであれば、極端に言えば保険金がなくても生活に困らないかもしれません。必要保障額は人それぞれです。メーカーが作る保険設計書は、保険金を大きくするような仕組みで作られるものです。現実的に考えて「このくらいあれば、なんとかやっていけるだろう」というくらいの保険金額が、ちょうどいいと思います。

これからの保険は、オーダーメイド感覚が、より一層強くなっていきそうです。「自分にぴったり」が分かるように勉強したいところです。



#### ●プロフィール

ささき・まさし 株式会社インフォランス代表取締役  
大学卒業後、都市銀行の保険代理店部門に就職し、企業の保険コンサルティング業務に従事。その後独立してインフォランスを設立。主に企業の税務やリスクのコンサルティング業務を中心に、ホームページ作成やコスト削減など、企業経営の総合側面支援を提案している。最近では、「せんもんか紹介ネット」というホームページを展開しながら、企業と税理士とのコーディネート業務も手掛けている。現在、インフォランスに登録している会計事務所数は250を超える。  
<http://www.inforance.biz>